

経営比較分析表（令和6年度決算）

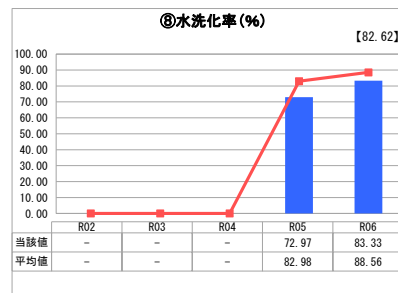
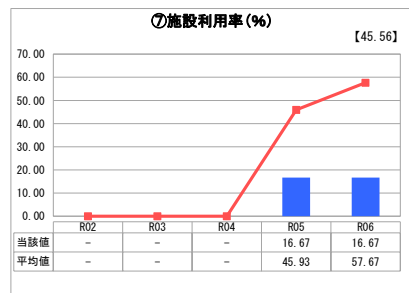
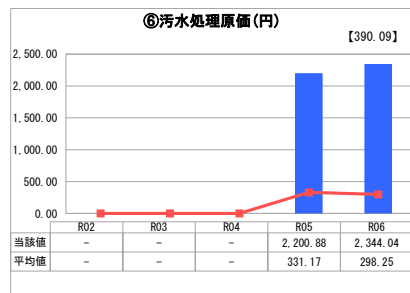
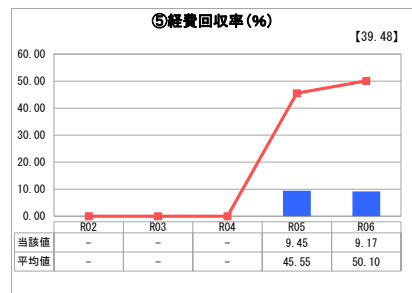
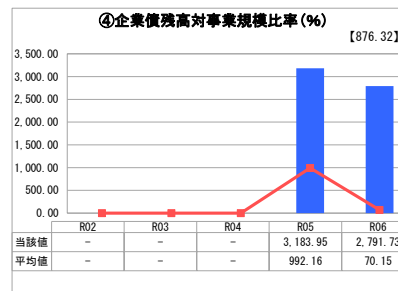
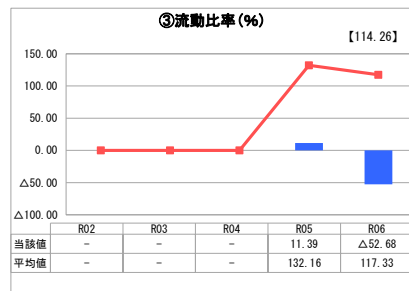
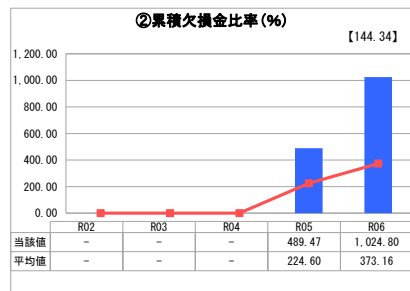
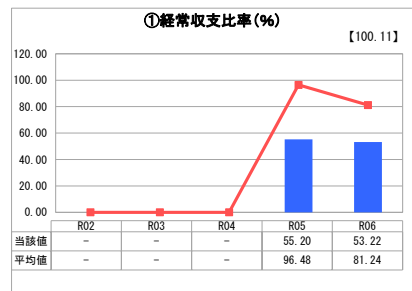
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	個別排水処理	L1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	△23.09	0.28	100.00	3,115

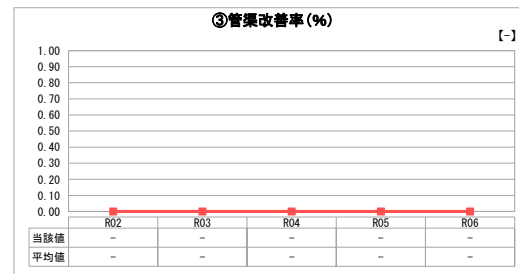
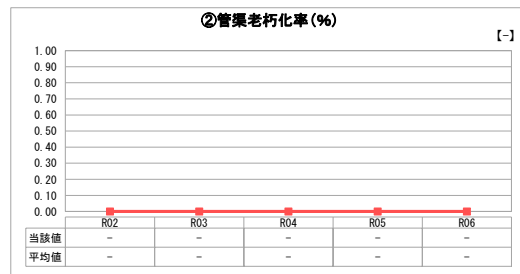
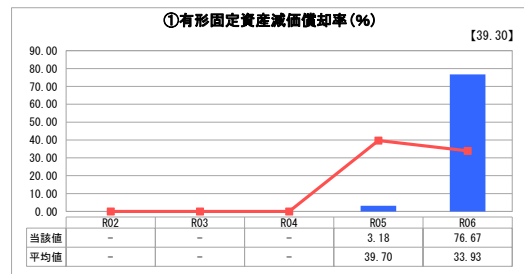
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,871	144.21	89.25
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
36	0.01	3,600.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

流動比率がマイナスである要因について会計上の振り分けによるものである。
 経常収支比率は、使用料以外の収入に依存しているため、経費回収率の向上を図る必要がある。また、経費回収率については、使用基数による収入に対し、維持管理に対する委託料が上回っていることにより低い水準となっている。使用料収入の確保及び汚水処理費の削減に努める必要がある。
 汚水処理原価については、類似団体より高い水準であり、規模に応じた適正な運営により維持管理費の削減に努める必要がある。
 施設利用率については、処理区域内人口が極めて少ないので、人口の減少による影響が非常に大きくなる。人口に応じた、施設規模の適正化を図る必要がある。
 水洗化率については、設置家屋の不在等人口の減少により低下がみられる。

2. 老朽化の状況について

浄化槽であるため、管渠の老朽化はありません。

全体総括

経営の健全化に向け、現在の規模に応じて維持管理の効率化を図り、経費削減に努める必要がある。また、料金の適正な設定を行うことで、経営の健全性を図る必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。